

文化財ウォーキング



この階段を登って行った仁王門の奥が薬師堂です。

ガイドさんの豆知識
一般的に、〇〇塔や〇〇堂にはお坊さんは住んでいません。

A 国分寺薬師堂

お堂の中には国重要有形文化財である木造薬師如来坐像が安置されています。普段は中に入れません、毎年10月10日に開帳が行われます。



D 鐘楼跡 (僧寺)

礎石(柱を支えるために埋めた石)が一つだけ残っています。2階建てで、2階に鐘が吊り下げられていました。



G 中門跡 (僧寺)

金堂・講堂・鐘楼といった寺院の主要建物を囲む塀の南面中央に設けられた門です。中央に扉が取り付け八脚門で、中門の南側には参道の痕跡が見つかっています。



I お鷹の道

湧水群から流れる小川に沿って遊歩道が造られています。かつての生活用水は現在、市民の憩いの場となっています。



B 真姿の池

絶世の美女の玉造小町が重病に苦しんだ際、この池の水で身体を洗ったところ、病気が治癒したという伝説により、この名がつけられています。池の中央には弁財天さまを祀る社殿が建っています。国分寺崖線を通った水が湧き出る湧水源があります。

国分寺崖線を地元では「ハケ」と言いますが、ハケには多くの湧水源が見られます。



E 講堂跡 (僧寺)

礎石と基壇の様子がよくわかる復元整備がされています。建物の基礎となる基壇は、瓦を積み重ねて外装としてあります。基壇の上には、礎石が整然と並んでいます。



C 万葉植物園

万葉集に詠まれた植物が並び、歌の表示札が添えられています。



瓦一枚の重さは4~5kg くらいあります。瓦の生産を負擔した郡名の一字を判押ししてあるのがわかります。



F 武蔵国分寺の文字瓦

武蔵国分寺跡資料館に展示されています。屋根に葺く瓦の生産は、武蔵国内の全ての郡、20郡が負擔し、郡の名前を1字で表現した刻印や人名等を刻みつけたものが多く見られ、これらを文字瓦といいます。



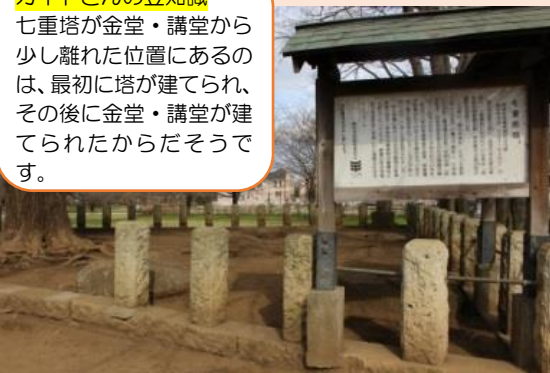
H 金堂跡

本尊の釈迦如来像が安置されていました。瓦が5万数千枚葺かれていて、建物全体で約140トンほどの重さになるため、それを支えるための基礎工事が堅固に行われました。



ガイドさんの豆知識

七重塔が金堂・講堂から少し離れた位置にあるのは、最初に塔が建てられ、その後金堂・講堂が建てられたからだそうです。



J 七重塔跡

七重塔は、お釈迦さまの骨を納める仏舎利塔(ぶっしゃりとう)に由来しますが、金光明最勝王經(こんこうみょうさいしょうおうきょう)という僧寺の名称(金光明四天王護国寺)にもなったお経が納められていました。

おたかの道湧水園内に、七重塔の復元模型が展示されています。



K 国分寺楼門

国分寺の入口にあり、市重要有形文化財に指定されています。前沢村(現東久留米市内)の米津寺の楼門を明治28年(1895年)に移築したものです。

○その他、お伝えしたい事はありませんか。
神山さん: 学校で史跡見学や校外学習に行くことがたくさんあると思いますが、グループで何かをするということはなかなかない機会です。何かひとつでも、皆さんの印象に残るようなガイドができれば幸いです。
佐々木さん: 国分寺市の皆さんは、教科書に出てくるような史跡が近くにあり、恵まれた環境です。武蔵国分寺の史跡にはまだ分かっていないものが多いので、疑問に思ったことは、これから皆さんで勉強していったらいいと思います。

○ガイドをして嬉しかったことは何ですか。
神山さん: 史跡の解説を通してみなさんに感謝の言葉を頂けたことが嬉しいです。
佐々木さん: 子どもたちから手紙を買ったことあります。それぞれのお客様に理解していただけるよう、勉強していくことにやりがいを感じます。

○愛護ボランティア史跡ガイドの活動を始めたきっかけは何ですか。
神山さん: 定年まで勤めていた会社を退職する時に、市報でボランティアのことを知り、歴史にはあまり詳しくありませんでしたが、質問されたことについて勉強し、答えることができ、一方通行の講義ではないところがいいと思いました。

○なぜここに国分寺が造られたのか
奈良時代中ごろになぜこの地に国分寺が建てられたのでしょうか。それには次のような理由があったのです。
○東山道武蔵路(当時の一級国道)が通っており、交通の便が良かったため。
○南側が開けていて、北(背後)に山(国分寺崖線)があり、四神相応に基づいているため。
○湧水があるので水が豊富なため。
○国府(政治の中心地。武蔵国では、府中におかれていた。)まで近すぎず遠すぎないほど良い距離であるため。

△文化財愛護ボランティアのお二人へのインタビュー▽
史跡をご案内いただいた後に、お二人からお話を伺いました。